

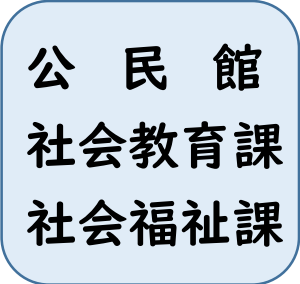
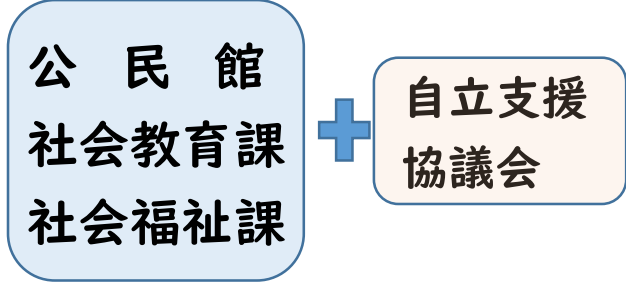
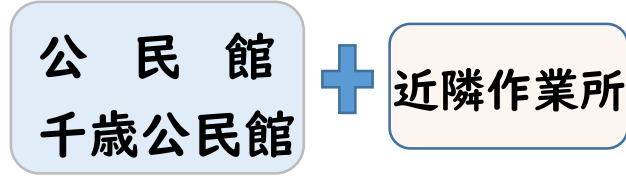
公民館におけるプログラムの開発

一般社団法人ここからプラス 代表理事 野中浩一



豊後大野市緒方町「原尻の滝」を背景にしたホームページ画面です。
令和3年度より市内公民館及び体育施設の指定管理事業をしています。

I 事業を始めるにあたり

項目	連携相談	説明
基本構想		<ul style="list-style-type: none"> ○単館公民館で取組む内容 <ul style="list-style-type: none"> ・公民館らしさ ・無理をしない内容 ○参加者同数程度の体制 <ul style="list-style-type: none"> ・有資格者の対応検討
情報交換		<ul style="list-style-type: none"> ○障がいの学びの課題 <ul style="list-style-type: none"> ・種類や程度による課題 ・それに伴う課題（付き添い・会場送迎） ・就労支援から見えた課題 （出された意見や・現状を反映）
実施相談		<ul style="list-style-type: none"> ○作業現場と情報共有 <ul style="list-style-type: none"> ・作業所通所者の現状 ・具体的内容の可能性 ・会場・環境等 ・障がい者の希望・意見

参考資料

豊後大野市生涯を通じた障がい者の学び支援事業 (素案) ～ 生活・教養・余暇・癒しなど持続可能な取り組み ～

障がい者を巡る現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校卒業後の障がい者対象の学びの取り組みは少ない ● 障がい者のニーズ、保護者のニーズなどの把握はできていない ● 障がい者支援団体からの状況を聞くことができた ● 障がい者社会参加に向けた学びの創造が必要な認識ができた
--------------	---

～ 自立支援協議会や作業所の意見 ～

取組みにむけた協議より	<ul style="list-style-type: none"> ■ 障がい者事業専門部会等からの意見・視点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 障がいの分野・状況が多岐にわたる。対象を絞った取り組みが必要 ・ 支援学校卒業者に対してのフォローが必要ではないか ・ みだしなみ、礼儀作法、金銭感覚の学びなどは重要 ・ コロナ禍で人が集まることには制限がある。(集めにくい) ・ 公民館などで行うことが望ましい。 ・ コンセプトを決めてから募集する形で推進したほうが良い。 ・ 障がい者の実態としては「趣味がない」「出会いがない」課題もある。 ・ 取り組みを行う理由を明確にしたほうが良い。 ・ 施設利用者を対象にした取り組みはどうか。
-------------	--



① 支援学校卒業者	<div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;"> 在宅障がい者 </div>	支援学校経由で周知	
② 作業所通所者		作業所経由で周知	
ねらい	内容	対象	運営体制

Ⅱ 募集対象

項目	説明
方針	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に自力（家族等の送迎協力含む）で参加できる。 ・参加可能人員を概ね20名とし、登録制として参加者を募集をする。
竹田支援学校	<p>①募集案内・・・対象者と家族に返信用封筒同封で登録案内（アンケート）送付。 ◇9月30日期限、随時受付</p> <p>②講座案内・・・登録者に具体的な講座案内を送付。参加者の募集を行う。</p> <p>※ 市内出身の高等部卒業生は73名、個人情報のため宛名印字は依頼 回答状況：返信あり 11（<u>参加したい・わからない4</u>／参加しない7） 返信なし 54 宛先不明 8</p>
市内作業所	<p>①自立支援協議会に事業説明、協力依頼。</p> <p>②募集案内・・・案内チラシ配布、登録募集。◇10月20日期限、随時受付</p> <p>③講座案内・・・作業所に具体的な講座案内を送付。参加者の募集を行う。</p> <p>※ 市内通所型作業所14か所へ説明、協力依頼（卒業生登録状況確認後） 希望状況：登録者 11（A作業所：10 B作業所：1） <u>1月23日現在：登録者 14（A作業所：13 B作業所：1）</u></p>

Ⅲ 運営体制

項目	説明
方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○障がい者「参加者」への配慮を考える。理解しようとする気持ちを意識する。 ※筆談ができるようにホワイトボード・マーカーを準備する。 ○障がい者、関係者全員の学びとする。一緒に学ぶ中で接し方や思いにふれる。 ※名札として、好きな呼び名を白布テープに記入し左肩にはる。 ○気をつけてほしいこと等を事前に確認する。
協力体制	<ul style="list-style-type: none"> ○地区社協会議で「協力者」募集の依頼を行う。（公民館を利用される地域住民） 募集案内の結果：協力者は1名 個人的な声かけで最終的に5名が登録。 ○公民館・福祉関係者、市役所関係部署に「支援者」の位置づけで協力依頼。 毎回10名程度の協力をいただき実施している。 ○「協力者・支援者」がわかるようにビブスを着用する。
その他準備	<p>講座開催に向けて意識したポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 会場選定……ユニバーサルデザイン・複数の隣接会場確保・広い駐車場確保 開催日程……休日開催希望もあったが、協力人材の確保しやすい平日に開催 コロナ対策…情報収集・可否判断・検温・消毒・換気の実施・座席等配置 情報確認……登録時アンケート・自立支援協議会情報・作業所情報 講師打合せ…参加者情報共有・時間内で完結するための内容メニュー

新しいチャレンジ・学びの機会

夢・イメージ

就労・社会生活

福祉サービス

障がい者

家庭・日常生活

家族

障がい者

友達・仲間

家族

障がい者

◇家庭での日常生活

◇夢や将来への思いをもった生活

◇障がいとつきあっていく生活

共生社会実現に向けて

一緒に学び、すごし、支えあい、理解を深める

○関係者

支援を依頼できる人

障がい者・家族

=

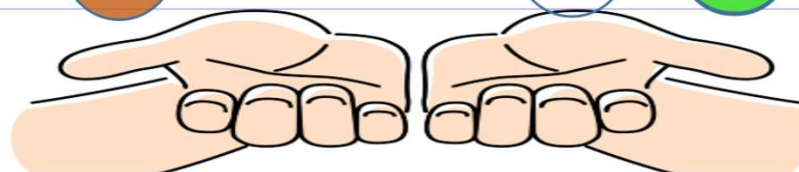
課題・ニーズ

=

○地域人材

協力していただける人材

福祉サービス



公民館がマッチング・コーディネートする



ひょうたんカレッジ I

相互理解講座として
協力者の育成を目的に開催



講師

- ① おおいた障がい者芸術文化支援センター
吐合 紀子先生
- ② 絵手紙講師
原野 彰子先生

10月 4日 (火) | 14:00~16:00 千歳公民館第4会議室

吐合先生から「障がい」についての基本的な学びと、様々な取り組みを紹介いただく。原野先生から車イスで生活されるご自身の体験談や、接し方のポイントなどを学ぶ。持参された芸術作品鑑賞をする。

参加者	—
協力者	3
支援者	5
講師	2

ひょうたんカレッジ II

オリエンテーション



ボッチャコート
ブルーシートで作ってみました



アイスブレイク



卓球バレーみんな夢中です!

講師

①あすぴあおおいた卓球バレー講師

佐藤 貞子先生

②あすぴあおおいたボッチャ講師

渡邊 法子先生

10月25日(火) | 4:00~16:00

千歳公民館第3・4会議室

参加者 | 0

アイスブレイクでみんな仲良しに、隣接2会場に分れてレクスポーツを

協力者 4

体験。2部屋に分けて設営しているのでスムーズに実施、60分で会場

支援者 | 0

を替わり全員が体験することができた。

講師 2

ひょうたんカレッジ III

生活課題と癒し

講師 ①キッズマネースクール講師
篠崎 美保先生

②廣末弥生お琴教室



夢実現にお金は大切です



「さくら」ひけたよ



琴の演奏にみんなうっとり

11月29日(火) | 4:00~16:00 千歳公民館第3・4会議室

参加者 9

課題とする「お金の学び」電子マネーをはじめとする新しい生活の形や

協力者 4

夢実現のために必要な学びとして、ライフプラン作成にもチャレンジ。

支援者 10

後半は、地元のお琴教室による演奏鑑賞、実際に琴にふれて演奏体験。

講師 3

ひょうたんカレッジ IV

季節の工作とおやつづくり



トッピングしますよ～



「門松」を作りました



さあ、クレープ焼くわよ

講師

①安部悦子折り紙教室

②ボランティアグループすみれ会

12月20日(火) | 4:00～16:00

千歳公民館 第4会議室

参加者 10

新しい年に向けて正月飾りづくりに挑戦。

調理室

協力者 4

折り紙を活用して「門松」を作りました。講師が事前準備をされたので

支援者 10

時間内に完成。すみれ会の指導でじりやきを応用しクレープを作る。

講師 8

ひょうたんカレッジ V

新しい学び



ドローン初体験、うまく飛ばせたよ

講師 ①有限会社 橋本書林
②BUILD OITA



スマホ教室、協力者にも◎



VRゴーグルで災害体験

1月23日(月) | 4:00~16:00

千歳公民館 第4会議室

参加者 9

参加者、協力者に事前アンケートを実施し

2階ホール

協力者 4

課題等を確認して「スマホ教室」を開催。二部は会場をホールに移動

支援者 16

災害についての学習の後、ドローンとVRゴーグルの体験を行った。

講師 12

V 振り返り

作業所支援員の存在

この事業は協力者・支援者を中心に運営しているが、参加者の送迎を兼ねて参加される作業所支援員の存在は大きい。障がいの特性、健康状況を把握できていることから参加者の安心につながっている・・・

「作業所の協力を 感謝！」

専門有資格者の対応

本年度、視覚障害・聴覚障害の参加者がいたが、作業所支援員や参加者が寄り添って事業に参加をされていたので、そのまま見守っていた。

手話通訳者等が参加することで理解が向上したかもしれない…

「当事者・関係者と相談して検討したい」

運営時間（2時間）

全体時間、集中力などを考慮し「1講座60分の2部制」で運営しているが、トイレ時間等を考えると、まとめ・振り返る時間が取れない。アンケート時間も短い。

来年度は余裕を持った時間配分を検討した方がよいか～

施設課題

主会場に車イスの講師が来館時点字ブロックを通りにくそうに通過するのを見て、視覚障害の方には有効なデザインも、車イスの障がいになるのか…

「障がいによって課題が違うのだ」



VI まとめ

参加者の募集中に「どれだけの対応があるかわからないと参加できない」「送迎等はないのか」などの問い合わせがありました。障がい者や家族の中に学びや体験のニーズがあることがわかります。今回の取り組みによって、参加者から他の障がい者、協力者や関係者から地域の方々へ支えあいの心が広がってほしいと願います。

「学び・つどい・つながる」公民館では、理解者・協力者を増やしながら取り組みを継続してまいります。

ご清聴ありがとうございました

